

Q

メータ着脱ユニットについて

A

集合住宅のメータユニットは、東京都が2004年1月の工事申請分から義務化して以来、全国的な広がりをみせています。

この動きの背景には、メータ前後の配管継手部の腐食（異種金属接触腐食）が激しく、検定満了メータの取替えが出来ないなどの問題に对应、止水栓や逆止弁の機能を一体化し、開閉防止型止水栓など有効な給水器具として開発されたものです。

この利点として、次の事柄が考慮されています。

- ①防食構造が形成（組込み）されている。
- ②配管工事が簡素化できる。
- ③施エスペースが縮小化できる。
- ④メータ取替え工事が簡単・確実にできる。
- ⑤メータ接続方式に圧着式の採用

メータユニットの呼び径は13～25で、形式としては「減圧弁付き」と「無し」があります。

その他、各社が改良した数例を参考に紹介します。

- 1) ユニットの出入口ネジにコア内蔵
 - 2) 入口止水栓・エルボ、出口側継手を回転可動式
 - 3) 耐圧試験用プラグを付設
 - 4) 設置状態で逆止弁のメンテナンス可能
- などがあり施工・メンテナンス性が向上します。

本体はメータと同一材料で製造されるため接続部分で金属腐食が起こり難い構造となっています。また、メータの接続はスライド圧着式であり、ネジ形状・規格の異なる商品でも制限を受けません。更にネジの破損、応力の変化などによる漏水トラブルなどの心配は皆無です。

PS内の取合いスペースは狭小化されがちであり、各機能器具を小型一体化したユニットは前後の配管接続のみで完了し、コスト削減が図れます。機能性の高いメータユニットは、簡単・確実に施工が行える上、作業時間を大幅に短縮することが可能です。



▲メータ着脱ユニット（減圧弁付き）

（出典：水道技術ジャーナル 2007年10月）